

女子宅傳

L289

卜

山中の山様
今世の山は
山は山は山は

山は山は山は

山は山は山は

山は山は山は

山は山は山は

山は山は山は

こまりたを急ぐりりらるるに
部君小圃く六深く舞く心付く
獨りくく余年来その圃より
人あましくるが杉中氏と
より波女の形跡を
小冊子にて序立てて
感慨少くは拙筆を
くたすめ作

文化五廿辰季冬

久世五神儀

けりけりてくも実も出生でさるふ史寛政甲寅の
 一を勢六景のくた喜女といふ二人もひのま
 ごとく精気中しき教さすても巻角美若小で肉
 子に舟に困窮ぬおび刺へま輝ともふ物事
 ぶづひ信用の結ももつすふうろけまば衣教
 野道を叔羅までも賃入る法光たたらもあ
 らるべき程さく辛酉のく一糸材のくは賣れ
 其代結中く沖来進代海くアツりの徳信のさ
 へ物さむけやうくふ信さくけるが中くゆとむかざら
 史兄久孫をいふくとも淑世く居る向山老

よりか代後へ割合代めりて左畧してて見くへ
新と申由りて事無きなり多敷なり居屋敷を
早は主附もまうりて代幸いぬ其所に竹植ふ
小庭はけりて三人を養ふと凌ぐなりりの恒也
一しりり

一少く路出生と北俣勢自辨那に下土村乃何集り
減る老の妻彼より奄麻云那ふ回井村言ふ所と
りよもの其家へを易く出入り老より道へ来るのと
よりひきこりて喜ひ音とみける其中に喜き傷も
実子多く出生し喜音に難儀とてけふは

松平







少男六歳のとれた熱病の〜 傳へた〜 又其女
 小はらり〜 其後と昔も清竹おれた〜
 活ひまは親類の因氏〜 け〜 や叔父居実
 母と素名もさ〜 富る人の子〜 娘のき〜 後よ
 しき〜 肉〜 しく〜 した〜 の〜
 肉身〜 思愛の〜 言顔もみ〜
 傳へた〜 福氣たり〜 言顔もみ〜
 くち〜 汲世の〜 され〜 髪は判
 杖よ〜 迎〜 物り〜 ぬ妻とよも不
 り〜 債〜 債〜 縁の〜 け〜 きのの

日紙送りまは紙少摩かきみく昼夜親のまゆ
 とまけまも初が乃身まは急角のまゆ
 がくナニ歳乃とたゆくまひけまふ出まはまゆ
 かく親のまふもまゆゆたく人紙のまゆ世はまふ
 まゆ近まへりゆた張張紙のまゆ家地のまゆ
 首紙中一其紙りま飯米のまゆかまゆ自身まゆ
 まゆまのまゆ奉ま紙大切まはままふまゆまゆまゆ
 信報まゆゆまゆまゆまゆまゆまゆまゆまゆまゆ
 ちまゆまゆのまゆまゆまゆまゆまゆまゆまゆまゆ
 親紙まゆ村方まゆまゆまゆまゆまゆまゆまゆまゆ

松島女專

中務儀よりかゝりてをかりかく思ひ自身も今更
 身代志のむらゝよそのふまじは親の介抱又急
 る慮たうと新紙中々敷申奉公へ所村への
 隣材代かぶらうと遠方への結指のこゝれと痛
 あるとく之ども約奉をうとて村をよ救まら
 日ゆふともく休日のもつあつひを仕事乃いと
 向ける時あかど友達の老いも打寄あはれども
 少増を帯りて入奉りてはうとて一人へ福いぬ
 親乃とげくゆれた新るる紙拂う念物とこうと
 手舟圓筆紙圓くよほげん紙はうとけ敷

我分も若りくに沙多うふんげお業と仕立
 て主人の勤を承けけるも所物らまじり
 帰るを承け徳成由りか立事も仕業のる成見
 けりやうく度々若りくしりしりお親の機
 さうりひも承けけるもかきも奉るの足成
 にきりさるやうお勤成りくしり人並り寄
 らるにたふかゆい主人承りも足成よとひ
 度視を承けり所承りまじり遠くへ行く
 勤よ承りお承りお承りお承りお承り
 けりやうくお承りお承りお承りお承り

多しは逆所さかたへの老氣おのきは毒どくにおのひ主人しゅじん家けのお
 もりともいふ其身そのみも移うつ道みちてくとなすどんくわの時
 中なかつけれを其方そのつう義ぎ主人しゅじんの志しよ藤道ふじみちは藤原ふじわらの
 學まなのそ人ひとあきゆるらと休やすむ和具わぐもつらとて定さだむ
 事ことふきし若わかえよ河からく破やぶ道みち返かへのそふ我われえち
 かく難くわん難なんくはるやいろさかんわあやとらいつれ
 たらと親おや氏うぢ業わざどてそのも是こゝろまき逆所さかたへの
 志しよた老らうども自みづか身みの志しよ海うみよ引ひくそ吹ふきさるま
 其そのあ半はん実みのそ母ははもあるやうす日ひばいりも縁ゆかり
 らひて立たち保たもとくし傳つたへおへる居ゐるてい性しやうく

花も咲きまじりまじり戯れとらひこればもいひい
たる幸乃もも知れより存恩ありは今さ
見控く物世とらぬた物ありゆりといて中
いふの半やも念をせばとら親と大切あり
より依半たれたるた乃かど皆く感とらり

一山田井村の吉き清々と地分は足使ありのひ十や氣
乃はより中笑きるゑ連那村と近年進く園
新しく其と知りひげられたる親の物氣西月
もまた清才なりとさぞや進後よりあゆまきとら
乃あひる物人の物く破ととの代金への物



海樞氏抄もろけり安んたら事すむべし
 けりへ帰道ぐさもけりぐふ田丹よんまきり
 まる此方の実父母のこゝろはろけりともんまき
 けりめ難きをきいさせゆぐおのこゝろありて
 嫁入もたらぐさく入部もあるまきり
 いんやももさるさるまきり
 志らうろき書していしきふいさるのふぬいさるは
 四保切もさるさるまきり
 いんやももさるさるまきり
 まくいおりんども実父母のこゝろ義理もまきり

殿ごん一いおさび毎ごとり中ちゆう秘ひめを教おし後のちよるせね殿
らふさくそへてら山やま田た井い村むらへ来る幸さいも多おほく
ら夜よのそりくち道みちもせましくおる歸かへりける
ゆへ其そののらきき吉きちき勝かつもそ幸さい成なりつひせだ
ちらのの中ちゆうやま一いかさきくは石いし段だんよなごんくさく
日ひ次つぎ送おくりきふととぞ

一い喜き和わ玉たま成なりのそく二月にがつ次つぎも侍さむらい親おやま婦つまの銘あな
まに物もの氣き此こゝ々々一いさになんく付つけらるたま態たい
那の幸さい文ぶんよそへかやうの病あまいも令しん使しし
るる例れいも國くにやうびけ道みちバ御ご治ちの心こゝろ落おち

孝女傳

今更なほ氣つてさげしむるはねびりま
 より西國明禮といふ人親もつるま村さ
 の人へ後合へるは六言ふと神仏の如獲お
 て妹氣つてはさげしむるはねびりま
 無く合へるといふをせにいつてはあまり由
 やがて松岡志してさ達へるふ一むるさ
 少く習ふにけしむるはねびりま主人の如く
 中つては業ひ終るく道分る道さう
 持しとるふを食とるして徳野湯治より
 三十二新明詳して其卒の如く人をもはが

なく帰せけふ其好まおのも流平ふ病体お
 ちりまよおきく見を存一に解にまりとま
 不渡世もかりかゝ村に此右介よりま
 と氣乃毒よたりのしま婦中合せけなひは
 流平不佐良普光寺へま詣一酒坊へ湯治
 渡へりや姓氣と申もふもあはれとな付
 村へても徳合一毒おけけは言額もつえ言
 くちりまよふま申途中ま乗まくだんぐ
 流平まよふま申途中ま乗まくだんぐ
 まよふま申途中ま乗まくだんぐ





て皆米代あへん秘代あへん通りりふと我

其後年経とだくと人とも降なく帰る

叔村方の者打あくと縁へあひかゝる

とも長の旅あふて味難後とてあけん

いふるらん度とて柔いゆとあくとあ

くも六と親ともあひの通のあ侍るは活

ゆふと極あくとお集まんとき先達もあ

んとあふんすうせふあゆとあひは介

あまくと帰るととまり急角とあ親のあ

あまくと半代あへんとあふんとあひは

妻つました夫おとこの心こころをうらやましく思おもひて居ゐる
 づつれ愛物あいものづらうもでげ雅みやびなとも思おもはるゝ心こころを縛しばり
 一傳いつでん花はなまま婦ふハ一いつ年ねんの未まと病びょう氣き甚じんく
 かりて自みづか定のぢやうぢやうの自由じゆうもくろひがく道みち所ぢよの夫おとこ
 ありても思おもひ討うちたまはく思おもひ討うちた
 とも釋はなりてをばくそのふくも思おもひ
 中なかつを丁ぢやう卯みづの八月はつがつよりまゝとやめ居ゐる
 介けい抱ぶのこゝろけふが其その中なかににも思おもひ
 て乳ちちを凌しのげけ其その中なかにも思おもひ
 皇み曆れき代だい好このきとて思おもひ
 個こへ思おもひ

一錢の終へもなれ半あり其時よこりてへる
 多難人なもめく聖旨へいりて進むべしと納
 地を安其日小倉に下す丁もも買ひのめとあ
 しやうり其かあものごみふふおとんけ
 て終させそん代候づめくるいさうの事
 せもほわふあ親よさうらひし事なく日く
 夜く今抱急くは満更させきも是難候さう
 も安候しし一石もふたり

一丁卯の妻はらまで終候やし小倉志はらふ
 破換しきと代金もあはらりしきあしきふ

小豆氏 賢父村より移り善法寺にて
せけるが日よさらり風ぬるげにたれ
小豆氏とて一は少終り親と介抱し
幸わして這出上人もゆかりけるに
村方の志ありてより一に終り
即して小豆と建勢にありける

一 建勢村をワグウなる式百七十石餘りの寺所
て家敷二十四畝あり海へも少し二里半
ありて新井名目ゆする人軍換水橋と
りたの道ごとく甚ど困窮村より

死者多しども皆く所望國うてく作業す
 仲のまき精出〜渡世〜けふ其中イ
 傳務夫婦といふ所の因縁もや世は稀なる
 新病をもちて毒入り日代送りの秘つれ
 村中おこころて居りて居りてけりゆ
 雨雲も中も〜且辰定暑とも凌ぎて終
 もおこむざら半全村この深切とらふ
 ことひ〜人よやあが若竹の海とらふ
 柳ありとけふ半とん〜感〜けふ

一文化五代辰夏の流所飲下一流よ孝子希

夢形らる者あ〜中出するの位半りり多終る
村後人より書取瓜りの〜少葉が終状
ア〜ふあ運

河聴又遠〜同年六月四日 河後おめされ
村後人少葉氏を運物多〜河後人の持いの
上河原表及〜河系河下〜ある川を
の写左〜通

覺

運物村後氏書

一米貳拾俵

堂後

幼年ようねんの傳つたへてと岩山いわやま處ところ傳つたへて及および極ごく

窮きう其その支し婦ふ大だい疾しやく病びやうと六む七しち年ねん必かならず果はた

格かく別べつ必かならず愛あい相あひ成なり作しやく業ぎやうを勿なほ偏へん居ゐ持もち

強かう出い来で身み存ぞん十二じふに年ねんを奉ほうと波なみ浪なみ張はりと

屋や浦うら年ねん負お相あひ納なまぬ親おやと波なみ浪なみ張はりと

右みぎ平へい公こう之内のうちに長ながあ親おやと公こう乃の付つせとと

宿しゆくを御ご打うり介け抱だいし親おやと

之側とらと不離とら孝とら忠とらと之とら且とら去秋とらの友とら

親とら共とら病とら氣とら不とら宜とら在とら臥とら床とら時とら時とらと死とら

拵とら言とら漸とら知とらと凌とら中とら言とら兩とら親とら之とら好とら也とらと

潤とら之とら氣とら之とら若とら心とらと之とら一とら家とら物とら成とら汝とら道とら

御とら願とら有とら之とら通とら之とら下とら以とら於とら以とら孝とら忠とら之とら也とら

辰とら六とら月とら胃とら

三とら日とら

右とら通とら任とら所とら之とらけとら之とら少とら少とら疾とらハとら存とらもとらよとらしとらぬとらるとらをとら

V48 L289
S

土カ女傳

育^うく^い後^ごは^い道^{みち}て^て首^{くび}氏^{うぢ}の^のげ^げの^の種^ねを^を居^いる^る由^{よし}後^ご
より^も河^か原^{はら}の^のあり^{あり}村^{むら}に^に人^{ひと}お^おし^しく^く山^{やま}終^は中^{ちゆう}と^と川^{がは}あり^り
け^けの^の海^{うみ}は^は少^{すく}な^なと^と海^{うみ}の^の言^{こと}は^は母^{はは}の^の言^{こと}に^に準^{したが}ひ^ひて^て何^{なに}の^の言^{こと}も^もお^おし^しの^の
ら^らも^も少^{すく}な^なと^と海^{うみ}の^の言^{こと}は^は母^{はは}の^の言^{こと}に^に準^{したが}ひ^ひて^て何^{なに}の^の言^{こと}も^もお^おし^しの^の
一^{ひと}半^{はん}に^に稀^{まれ}なる^る孝^{こう}女^{にょ}と^とい^いは^はれ^れり

早^{はや}二^に家^か

傳^{でん} 居^い

早^{はや}二^に家^か

こ^こ の^の

二十^{にじゅう}家^か

少^{すく}な^な 衆^{しゆう}

文^{ぶん}化^か五^ご代^{だい}辰^{ちん}冬^{とう}十^{じゅう}二^に月^{げつ}

秋^{あき}幸^{さち}平^{へい}水^{みづ}徳^{とく}



文化六年己巳五月新刻

勢州津書林

山形屋傳右衛門

 三重県立図書館



140013558